

いちのみやの芸術文化

- 特集「鎌倉街道を歩く〜黒田編〜」
- 加入団体の紹介
- 第71回一宮市美術展入賞者
- これからの催し
- 文化講演会（報告）

籠守勝手神社前へ延びる鎌倉街道

2013.12

第27号

一宮市芸術文化協会

「一宮市」には、一宮市博物館・一宮市三岸節子記念美術館・一宮市尾西歴史民俗資料館など先人の残した文化を紹介する施設があります。私たちの「身近な文化」を学んでみませんか？

鎌倉街道を歩くと黒田編

◆鎌倉街道

鎌倉街道は、今から八〇〇年以上前、各地から鎌倉へ向かう街道として整備され、鎌倉時代以降の主要な街道のひとつとして発展しました。しかし江戸時代になると、東海道などの五街道が主要幹線として整備され、鎌倉街道はその役目を終えました。その姿は、言い伝えや発掘調査によってある程度わかっていますが、今では正確に把握することが、難しくなっています。

さて一宮市内の鎌倉街道は、玉ノ井→黒田→馬寄→牛野→妙興寺を経て、稲沢市下津に至ると推定されています。一部は、江戸時代に整備された岐阜街道とも重なっていると考えられています。

今回はこの鎌倉街道のうち、木曾川町の黒田地域を中心に紹介します。

◆黒田

黒田は旧木曾川町のほぼ中心に位置しています。『木曾川町史』によれば、平安末から鎌倉初期には黒田に宿や市が設置され、鎌倉街道の要所として栄えていたようです。その名残として今日でも北宿、南宿という地名があります。また江戸時代には岐阜街道が南北に通っていました。

さて美濃の墨俣宿を通り過ぎ、木曾川を渡った鎌倉街道は、玉ノ井にある賀茂神社の裏を東へ、また念敬寺ねんきょうじの北側、外割田にある八剣神社の西側を通り黒田にある剣光寺へ抜けれます。

※背景の写真は、鎌倉街道より剣光寺を遠望したものです。

◆剣光寺・頼朝橋

剣光寺の寺伝によると、建久元年（一一九〇）に源頼朝が京からの帰りに参詣したといわれています。この時、通ったといわれている橋が剣光寺の北西、北古川に架かっています。この橋は「頼朝橋」と呼ばれ、その親柱には「よりともはし」と刻まれています。この橋を東へ渡る剣光寺の北側の道を鎌倉街道が通っていました。



▲頼朝橋

◆籠守勝手神社

頼朝橋を東へ渡り進むと県道名古屋・一宮線にあたります。鎌倉街道は、この付近から定力寺たうりじ、JR木曾川駅付近までその経路は不明ですが、JR木曾川駅を横断し籠守勝手神社もりかたての前に出る道です。籠守勝手神社は、延喜式えんぎしきにおける黒田神社と推定されています。また籠守勝手神社の前の道は草道とも言われ、幅が狭い道であったといわ

れています
神社までの
参詣道は、
拡幅部分も
ありますが
現在でも細
い路地が入
り組んでい
ます。

◆白山神社



▲鎌倉街道の北側にある籠守勝手神社

鎌倉街道は籠守勝手神社の前から南東方
面へ向きをかえ、白山神社へいたりします。
また、白山神社へ出た鎌倉街道は、門間の
伊富利部神社の前へ抜けていきます。ただ
この付近は土地区画整理事業が行われたた
め、詳しい鎌倉街道の経路は明らかではあ
りません。

白山神社は皇極天皇二年（一三〇二）に
勧請（かんじゆ）（分霊を他の神社に移すこと）されま
したが、永祿三年（一五六〇）の浮野合戦
で兵火にあいます。その後、当時の黒田城
主一柳監物直盛（いちりゅうのかんぶつちかむね）によって再建されました。
またその昔、神社の北西の鎌倉街道沿いに
大池があり、ある旅人が馬をひいて池の傍
で休息していると、馬が池の主である大蛇

にひきこまれたという昔話を伝える「史蹟
馬取り池」の碑が、白山神社西側に建っ
ています。



▲馬取り池

今回は、鎌倉街道のうち黒田地域につ
いて紹介しました。老年の方々に鎌倉街道の
ことを尋ねると「聞いたことがない」「知
らなかった」というお話でした。今日では
それを復元していく難しさを感じ、地域で
失われていく前に、情報を収集していく必
要性を感じました。

（一宮市博物館学芸員 石黒智教）

【参考文献】

- 『木曾川町と鎌倉街道』（木曾川町役場総務部企画課・二〇〇五年）
- 『木曾川町史』（一九八一年）
- 『稲沢の街道Ⅰ―鎌倉街道と岐阜街道―』（稲沢市史資料 第三十四編・一九九九年）
- 『下津公民館用地埋蔵文化財発掘調査報告書―下津城跡・下津城跡下層遺跡―』（二〇〇三年）

【謝辞】

木曾川資料館主幹の川井達郎さん、黒田地域の皆様
にご教示いただきました。略儀ながらお礼申し上げます。

『木曾川町黒田地域周辺図』



※地図の作成にあたっては「木曾川町散策マップ」及び「木曾川町と鎌倉街道」を基に作成しました。

「いぶき」は平成21年に尾西生涯学習センターで開催された水彩画入門講座の卒業生が、まだまだ勉強していきたいということで、講座でお世話になった小川護先生に引き続きご指導をお願いし、平成22年1月に発足しました。

現在は尾西生涯学習センターで、毎月第2・第4月曜日の午後1時30分から先生の熱心な指導のもと、楽しく活動しています。

発足してすぐ、小川先生からご指導をいただいているグループの合同展「MORE展」が開催され、私達もこの展覧会に出品させていただきました。まだ右も左もわからぬまま、必死に作品に取り組みました。ただ、このときに経験することができた感動は、一生忘れることができません。また毎年秋には、尾西歴史民俗資料館にて「いぶき水彩画展」を行っています。

一昨年ほど前から、地域への恩返しと交流のた

め、色々な施設に作品を展示させていただいています。また、他のグループの皆さんと一緒に美術館の見学や港の写真撮影に出かけたり、近くの河原などへスケッチをしに出かけたりもします。

現在は男性2名、女性11名の気の良い仲間達で、自分の思いを絵に託し、一喜一憂しています。こんな仲間と一緒に楽しく絵を描いてみませんか。ぜひ一度、見に来てください。



◀教室にて

【問合せ先】掛橋 由紀子 ☎76-6830

アートの花に魅せられて「花をつくる」ということの楽しみや喜びを感じながら、素敵な先生や仲間と一緒に活動しています。

アーティフィシャルフラワーとはさまざまな素材から生花をリアルに再現し、造り出された造花です。アートの花は1枚の白い布を裁断し、染色して形を整え、コテを当てて接着し、針金を張るという細やかな作業の連続で出来上がります。草花の姿をただ単に真似するだけではなく、その花のもっている美しさや優しさが、より引き立つよう心がけています。

完成した花にはひとつひとつ違った個性があり、どれも他にはないオンリーワンの作品からは、大きな喜びと達成感を感じることができます。

また、同じようにアーティフィシャルフラワーの勉強をしている「鶴の会」から、声をかけていただき、講演会や作品展に飾る花と一緒に制作し

ています。それだけではなく、更に良いものを目指し、先生や仲間と美術館や植物園、アートフラワーの展示会など、色々なところへ出かけ制作意欲を高めています。

お稽古日は毎月第1、第3火曜日の午後1時から、一宮スポーツ文化センターで行っています。ぜひ一緒に美しい花を作ってみませんか。一度教室をのぞいてみてください。



◀一宮市博物館にて

【問合せ先】岩井 陽子 ☎73-3508

尾西新樹会は、平成12年に俳句を学びたい人が、講師、岡田波流夫先生のご指導のもとに集まり、発足しました。

例会は毎月第1月曜日の午後1時30分より、尾西生涯学習センターにて、10句持ちよりの句会を開催しています。

普段は、同じ俳句の団体である「尾西牡丹会」や「一宮市尾西市民俳句会」と一緒に活動しています。団体の垣根を越えて活動をするによって、良い刺激を受け、会員同士の交流にもなっています。

主な行事としては、1月に尾西グリーンプラザで新年俳句会を、5月には日帰りの吟行会を行っています。また、毎年の一大会事として、10月に他の俳句の団体や多数の一般の方の参加を得て、「一宮市尾西俳句大会」を尾西生涯学習センターの6階大ホールで開催しています。

会の特色としては「常に学ぶ姿勢」で、いつも前向きに活動されている年輩の方達を中心に、素朴で人間的な温かさを大切にしながら、和気藹々と楽しい句会を開催しています。

俳句は難しいと思われがちですが、日本語ができれば誰にでもできる、やさしくて楽しい短詩形の文芸です。ぜひ一度見学に来てください。どなたでも歓迎します。



◀ 岡田先生を囲んで

【問合せ先】大野 克昌 ☎68-1420

山瑩会は河合柳瑩会長のもと、平成10年に発足し、市内2つの支部に多くの吟詩会を持ち、会員数も100名を超えました。また、市外の名古屋や滋賀にも別の支部があります。

活動は年4回の錬成会や尾西芸能祭への出演の他、曾山流本部主催の研修会や競吟大会にも参加し、吟力の向上と会員相互の親睦を図っています。普段のお稽古は、起にある山瑩会教室を拠点に毎週行っています。

詩吟は漢詩の訓み下だし文に独特の節をつけて吟ずるもので、腹式呼吸による発声のため、声だし健康法ともいわれ、長寿や健康につながるともいわれています。また礼節を身につけ心を豊かにするとともに、歴史に親しむこともできます。

本年10月27日には名古屋駅前の「ウインクあいち」にて、第2回吟詠大会を盛大に開催し、織田信長をテーマとした構成吟「炎のごとく」を熱

演しました。

第3回吟詠大会は、7年後の2020年、東京五輪の年に開催予定です。“皆、元気で晴れの舞台にでましょう”を合言葉に、会員は更なる大きな目標に向かって走りだしました。

是非、山瑩会の扉を叩いてください。一緒に大きな声を出してストレスを解消し、健康で楽しい人生を送りましょう。お待ちしております。



◀ 第2回吟詠大会の晴舞台

【問合せ先】江崎 敦子 ☎62-7647

第71回

一宮市美術展

11月14(木)～17日(日)まで、一宮

スポーツ文化センターで「第71回

一宮市美術展」が開催されました。

市内を中心に近隣市町村や、県

外からも多数作品が寄せられ、出

品者は576名で、審査の結果、

入賞となった175点をはじめ、

570作品が展示されました。

期間中は、約5000人の方が

会場を訪れ、作者の熱意・エネル

ギーを感じさせる多数の作品を熱

心に鑑賞されていました。

各部門で入賞された方は、次の

とおりです。なお、同一賞内での

掲載順は順不同です。(敬称略)

日本画

審査員 星野哲弘

河村明美

市長賞

藤塚章

教育委員会賞

青山トミ工

美術展賞

三矢菜穂子

森 恵

森 賢二

湯 浅真奈美

奨励賞

甲賀春美

星野真由

山崎淑子

入選 41点



日本画部門解説

洋画

審査員

斎藤吾朗

柴田仁士

岩田哲夫

後藤泰洋

高山悟郎

堀尾一郎

市長賞

内藤圭介

吉村理華

教育委員会賞

尾関昌且

竹内保彦

美術展賞

石黒三雄

井上美恵子

梅田恵子

木村忠嗣

鈴木綾子

武田恭子

榎谷咲子

藤井忍

三輪恭子

山崎正春

吉川京介

奨励賞

浅野なつ子

阿部薫理

大塚昌弘

奥村健司

柏崎末次

神谷武

北尾千鶴

近藤博通

高田國光

柘植雅一

中川隆

水野 潔

香川 絹代

石原 昭

白井 哲雄

加納 静子

後藤 博

滝野 ちとせ

内藤 啓善

成瀬 弘子

藤田 勝秀

村橋 寛悦

山田 規夫

浅野 奈津子

宇佐美 竜太郎

岡田 優子

桶川 千秋

加藤 俱子

河村 幸子

近藤 憲男

関 節子

田中 道弘

戸松 佐代子

藤本 美奈

森 健次

入選 155点

彫刻・立体

審査員

森 克彦

川原 孝文

市長賞

伊藤 毅

教育委員会賞

堀部 美奈子

美術展賞

小川 杏理

奨励賞

杉本 一廣

入選 11点

工芸

審査員

加藤 陽児

澤田 進治

市長賞

丹慶 哲宏

教育委員会賞

小崎 陽一

美術展賞

伊藤 英正

宮越 経子

奨励賞

加藤 文太郎

入選 30点

加藤 陽子

橋本 妙子

小崎 美智子



会場風景

デザイン

審査員

源 安孝
森 昭夫

市長賞

柘植 雅一

教育委員会賞

吉田 奈緒子

美術展賞

久保 綾香
三輪 双葉

奨励賞

石井 佳代子
大竹 悠子

入選 19点

審査員

書

黒田 玄夏
後藤 汀鸞
武山 翠屋
木戸 竹葉
林 大樹
近藤 芳玉
岩田 潤流
村田 光柁

市長賞

小松 月泉
古川 白萩

牧 恵清

教育委員会賞

春日井 栄嘉
片桐 瑤雪

神田 鴻都
酒井 光華

橋本 佳静

美術展賞

井上 嘉蓮
今井 恭子

鵜飼 秀麗
内出 紅華

尾関 明美
加藤 瑞頭

岸田 松峰
倉橋 祐華

五藤 三禮
小林 進

近藤 由果
酒井 照苑

高桑 愛降
谷本 義仙

戸谷 嘉恵
戸本 有荷

内藤 春翠
内藤 爽月

長崎 成秀
丹羽 鈴子

濱田 梨沙
林 華泉

前野 樹風
森下 千代子

奨励賞

山田 清翠
脇田 玉波

青井 翠風

飯田 泰郷

伊藤 佳苑

梅村 真琵

河合 花影

佐藤 りさ

高松 彩月

東海 眉虹

永田 張羽

鳩山 煌華

牧野 瑞葉

松川 春霞

村上 桂峻

保田 昌石

山口 如泉

山本 瑤華

入選 220点

山本 瑤華

渡辺 湖風

山口 雪華

森 皇穹

宮田 苔華

松居 玉華

林 華静

野々垣 清城

永岡 沙弥

土屋 葵芳

鈴木 鶴扇

後藤 柳月

可児 長望

岩田 佳川

石井 玉華

安藤 静歩

山田 紅照

写真

審査員

丹羽 正仁
齋 場ひさとし

夫馬 繁勲

伊藤 繁雄

市長賞

長谷川 蕙江

教育委員会賞

櫻井 廂谷口 勉

美術展賞

大野 勇廣

小原 重春

川崎 慶子

櫻井 慶子

廣江 利男

宮崎 久仁子

奨励賞

安藤 正一

今井 彰二

木村 晴子

佐野 ルミ子

橋本 秀子

日比 憲宏

吉田 英昭

入選 94点

三野 彰

長谷川 隆光

巴 寛己

佐々 寛己

岡田 忠彦

安藤 雅彦

古舘 正芳

中村 悦子

櫻井 悦子

春日 井義三

小川 照秋

小川 照秋



写真部門解説

文化情報



「マウンテン」

左合 英明

《市および市内公共施設の催し》

一宮市博物館

☎(46)3215

企画展「暮らしの中の民具」

日時 1月11日(土)～3月9日(日)

午前9時30分～午後5時

(入館は午後4時30分まで、

月曜休館、月曜が休日の場

合は翌日休館、2月12日(水)

休館。)

内容 機械化する以前の道具を観

察し、道具を使うことの意味、

流通や変遷を考えながら、道具からみた「歴史を学

ぶ」意味を伝えます。

観覧料 一般 200円

高大生 100円

小中生 50円

※市内小中生・65歳以上無料

講座「尾張平野を語る18

～「王胴具足」の謎に迫る」

日時 2月2日(日)～3月2日(日)

の毎週日曜日

午後1時30分～3時

内容 伝山内盛豊所用仁王胴具足

をめくって、科学分析の成

果を中心に考察します。

定員 各回先着100名(当日正

午より整理券を配布)

※要常設観覧料

「民俗芸能公演」

日時 3月9日(日)

内容

①島文楽

②ばしろう踊

③宮後住吉踊

定員 先着100名

※要常設観覧料

三岸節子記念美術館

☎(63)2892

常設展「三岸節子

装丁にみる画業」

日時 1月15日(水)～4月13日(日)

午前9時～午後5時

(入館は午後4時30分まで、

月曜休館、月曜が休日の場

合は翌日休館、2月12日(水)

休館、以下同じ。)

内容 油彩による作品とあわせ、

書籍や雑誌等、三岸節子が

装丁を手がけた本をご紹介します。

します。

観覧料 一般 320円

高大生 210円

小中生 110円

※市内小中生・65歳以上無料。企画

展開催中はその料金に含む。

企画展「現代作家シリーズ

はしもとみお展」

日時 2月1日(土)・23日(日)

午前9時～午後5時

内容 「生」をテーマに作り続けて

いる動物などの木彫を中心に、

デッサンや新作からは

しもとみおの世界をご紹介します。

します。

観覧料 一般 500円

高大生 250円

※小中生・市内65歳以上無料

「現代作家シリーズ

はしもとみお展」関連事業

対談講演会

日時 2月2日(日)

午後2時～3時30分

内容 作者と東山動物園園長によ

る対談を行います。

会場 1階講義室

定員 先着100名※聴講無料

ワークショップ

日時 2月8日(土)・2月16日(日)

2月22日(土)

内容 作者とともにスケッチや木

彫を行い、その創作世界に

触れます。

定員 各20名

※要参加費・要申込み(詳しくはお

問い合わせ下さる。

ミュージアムコンサート

日時 ● 2月11日(祝) 午後2時〜

(開場は30分前)

内容 ● 美術館で展覧会とともにコンサートを楽しんでいただきます。

出演 ● Popoys(女性ユニット)

定員 ● 先着100名

入場料 ● 一般 1,000円

高年生 500円

小中生 250円

※当日の正午から整理券配布

美術館講座「美術の学校7」

日時 ● 2月23日(日)・3月1日(土)

3月15日(土) 午後2時〜3時30分(開場は30分前)

内容 ● 美術により楽しんでいただくため、様々な視点から楽しく、わかりやすい講演会を開催します。

会場 ● 1階講義室

定員 ● 各100名※無料

企画展「道具は語る

〜ご先祖さまの知恵袋〜

尾西歴史民俗資料館

☎(62)9711

日時 ● 1月11日(土)〜2月23日(日)

午前9時〜午後5時

(入館は午後4時30分まで、月曜休館、月曜が休日の場合は翌日休館、2月12日(水)休館、以下同じ。)

内容 ● 暮らしの道具である民具を観察し、道具が持つ情報を引き出すことによって道具が語る歴史や文化を探ります。

観覧料 ● 無料

講座「街道の歴史」

日時 ● 3月9日(日)

午前9時〜午後4時30分

内容 ● 江戸時代の主要な街道について歴史と現在の様子を現地で学びます。

定員 ● 35名

※要参加費・要申込み。詳しくは2月号広報を参照。

講座「歴史と民俗」

日時 ● 3月16日(日)・3月23日(日)

3月30日(日)

午後2時〜3時30分

内容 ● 東海道本陣に関する講演会を行います。

※詳しくは2月号広報を参照。

中央図書館

☎(72)2343

開館1周年記念

「一宮のまつり60写真展」

日時 ● 1月7日(火)〜19日(日)

午前9時〜午後9時(14日(火)休館)

内容 ● 市内60種類の祭りの写真を展示します。

会場 ● 6階 多目的室2

観覧料 ● 無料

展示「スリランカの子供達の絵」

日時 ● 3月18日(火)〜30日(日)

午前9時〜午後9時

内容 ● スリランカの子供たちが日本のために描いた絵を展示します。

会場 ● 6階 多目的室2

観覧料 ● 無料

一宮市民会館

☎(71)2021

平成25年度最優秀映画鑑賞推進事業 黒澤明傑作選

日時 ● 1月18日(土)・19日(日)

①午前10時〜 ②午後1時

一宮市尾西市民会館

☎(62)8222

30分(開場は30分前)

内容 ● 18日①酔いどれ天使②生きる 19日①羅生門②天国と地獄

入場料 ● 前売り 1,000円

当日 1,500円

※全席自由・未就学児入場不可

NHK交響楽団トップメンバーによるブラスアンサンブル

日時 ● 3月16日(日)

午後2時(開場は30分前)

入場料 ● 大人 3,200円

高校生以下 1,600円

※全席指定・未就学児入場不可

お昼のコンサート

「モカ・カルテット」リサイタル

日時 ● 1月5日(日) 午後1時30分(開場は30分前)

入場料 ● 500円 ※全席自由

プレミアムアフタヌーン

「愛の調べ」シネマ&コンサート

日時 ● 1月13日(祝)

午後1時(開場は30分前)

一宮市尾西市民会館

☎(62)8222

平成25(2013)年12月

9

いちのみやの芸術文化

入場料◆1,800円

※全席自由・未就学児入場不可

新春初笑い!

「九代 林家正蔵独演会」

日時◆1月25日(土)

午後2時〜(開場は30分前)

入場料◆3,500円

※全席指定・未就学児入場不可

お昼のコンサート

「プラスアンサンブル・ロゼ」

日時◆2月2日(日)午後1時30分〜

(開場は30分前)

入場料◆500円

※全席自由・未就学児入場不可



「ヤングフェスティバル」

日時◆3月9日(日)

午前10時〜午後3時

内容◆青年グループ活動の発表会

で、一般の方も自由にご覧

いただけます。ご家族連れ

でもどうぞ。餅等の振る舞

いもあります。

参加料◆無料(内容により有料)



「市民川柳教室」

【問合せ先 一宮川柳社】

☎(45) 6951

日時▼12月22日(日)・1月26日(日)

2月23日(日)・3月23日(日)

午後1時〜

会場▼一宮スポーツ文化センター

内容▼自由吟および課題吟を一宮

川柳社委員が指導します。

(初心者歓迎)

参加料▼無料

申込み▼当日直接会場

「狂俳月例会」

【問合せ先 一宮狂俳壇連盟】

☎(51) 22806

日時▼1月11日(土)・2月8日(土)

3月8日(土) 午後1時〜

※2月は午前10時から

会場▼葉栗公民館

内容▼各自10句持参、互選により

優秀作を記録に残します。

(初心者歓迎)

参加料▼無料

「市民短歌教室」

【問合せ先 真清短歌会】

☎(62) 4654

日時▼1月12日(日)・2月9日(日)

3月9日(日) 午後1時〜

会場▼一宮スポーツ文化センター

内容▼真清短歌会委員により実作

指導します。(初心者歓迎)

参加料▼無料

申込み▼当日直接会場

「新年短歌会」

【問合せ先 真清短歌会】

☎(62) 4654

日時▼1月26日(日) 午後1時〜

会場▼一宮スポーツ文化センター

内容▼どなたでも(大会に先立ち

雑詠一首を1月16日(木)まで

(提出)

参加料▼500円

申込み▼当日直接会場

「市民俳句教室」

【問合せ先 一宮市民俳句教室】

☎(73) 5504

日時▼1月26日(日)・2月23日(日)

3月23日(日) 午後1時〜

会場▼一宮スポーツ文化センター

内容▼当季雑詠3句を一宮市民俳

句教室委員が指導します。

(初心者歓迎)

参加料▼無料

申込み▼当日直接会場

「平成25年度支部講演会」

【問合せ先 (公)中部日本書道会

一宮支部】

☎(62) 1841

日時▼3月2日(日)

午後4時〜5時30分

会場▼一宮スポーツ文化センター

講師▼(公)中部日本書道会顧問・

支部相談役 木戸竹葉先生

演題▼「古文書」はじめの一步

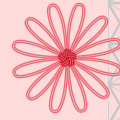
〜地方文書にみる庶民のく

らし〜

入場料▼無料(一般聴講歓迎)



『いちのみや文芸』 第42集を 刊行いたしました



10月19日(土)に「いちのみや文芸 第42集」を発刊しました。随想・随筆、現代詩、漢詩、短歌、俳句、川柳、狂俳の7部門あわせて320名の方から寄せられた2,486作品を掲載しています。

1冊800円で一宮市役所木曾川庁舎(一宮市教育委員会生涯学習課)にて販売しています。貴方も是非、お読みください。



愛知県文化協会連合会の催し(報告)

愛知県民茶会

10月27日(日)、常滑市民文化会館・常滑市中央公民館において、愛知県民茶会が行われました。

愛知県文化協会連合会、常滑市文化協会のご尽力により、四つの文化協会の皆様が設席をされ、当日は約2500人と大変多くの方が来場されました。

どの茶席も客足が絶えることなく、趣向が凝られたそのおもてなしに来場者は大変満足され、活況を呈しており、心温まる一杯の茶を存分に味わっていかれました。



愛知県文連西尾張部芸能大会

11月24日(日)、名古屋文理大学文化フォーラム(稲沢市民会館)を会場に、愛知県文連西尾張部芸能大会が開催されました。



西尾張部に所属する十一の文化協会の各団体の発表は、箏曲や大正琴をはじめ、日本舞踊、フラダンス、吹奏楽、ギター、合唱、三味線、民謡と多種にわたり、どれも気持ちのこもった見応えのあるものばかりでした。

本協会からは「百の会」(舞踊部門)の皆様が出演され、「端唄 京の四季」「長唄 伊勢参宮」の演目を披露されました。日増しに寒さの厳しくなってきた霜月に、見ている者の心を温かくしてくれる、そんな心地良いひと時を味わわせていただきました。

『読むことと書くこと』と『生きること』

作家 浅田 次郎 さん

10月19日(土)、一宮市尾西市民会館にて、文化講演会が開催されました。

作家としてご活躍中の浅田次郎さんをお招きし、ご講演いただきました。

【講演要旨】

「読書人」という言葉があります。これは普通に考えると、読書の好きな人ということになります。しかし、中国語的な解釈をすると読み書きの出来る人となります。日本ではピンとこないと思います。その解釈の違いが、日本という国をとってもよく

表現しています。

日本が明治維新の頃、世界で識字率が五十%の国は稀でした。

その時代に、日本ではおよそ九割の人は読み書きが出来たといわれ、今の私達では読めない太政官布告の高札を読むことができたそうです。また、幕末に出されたおびただしい数の高札を、宿場町ではほとんどの人がそれを読み、理解できる程の語学力があったといわれています。では、何故そんなに教育レベルが高かったのでしょうか。これは日本の国土に非常に山が多かつ



たおかげなので

す。そのため、平地に人口が集中し城下町や港町ができ、自然と教育が授けやすく、受けやすい形になっていったのです。

そのおかげで

明治維新は無事行われました。これは奇跡といっているでしょう。私たちは今、その歴史の末端で生きています。もし明治維新が上手くいかなかったら、どこかの国の植民地にされていたかもしれません。

ちょっと私事に戻りましょう。私は今でも本を読むのが大好きです。基本、一日一冊です。驚かれた方は読書が勉強だと思っ

ていませんか。違います。娯楽なのです。子供がゲームをやっているのと同じ感覚で、娯楽だと思ってしまうば榮勝です。

また、私自身はパソコンを使わず、今でも原稿を書くときは必ず自筆しますが、パソコンの普及によって文字を原稿用紙に書くという一番のハードルは、無くなりました。文字を書くという

ことは大変な苦痛を伴う肉体労働だったので、ある側面では非常に効率的になりました。

しかしそれに伴い、今の文章は切り詰められていくのではなく、水増しされていく感じのものが多くなりました。本来、日本語というのは、三行書かなければ表現できない文章を、一行で端

的に書くことができる素晴らしい文章です。それは俳句や短歌というもので表現されています。ところが、肉体的労働無しで文字を書いていくと、同じような事を連々と書いてしまいます。だから最近の妙に分厚い本を読み終えると、何が書いてあったのかと、ふと考えてしまうものが多くないでしょうか。

最後に、生きることについて考えてみたいと思います。老子の二千年前の言葉に、法律で規制すればするほど犯罪が増えてくるという言葉があります。中国の先人たちは、「何々をやるな」ではなく、「何々をやるべし」という教え方をします。これは大きな違いだと思います。現在の法治国家の世の中、法律を守っていさえすれば良いというように、礼や道徳が廃れてしまうことが、本当の貧しさであると思います。他にも、今の私達の世界をあたかも予見していたのでは、と思うような昔の言葉が数多く残っています。これは実は真理というのは二千年の間、何も変わっていないということなのです。

【題 字】 武 山 翠 屋
【編集・発行】 一宮市芸術文化協会

【連絡先】 一宮市芸術文化協会事務局（市教育委員会生涯学習課内）
〒493-8511 愛知県一宮市木曾川町内割田一の通り27番地
TEL 0586-84-0013 / FAX 0586-86-1809